

欧州 オレンジ果汁価格が10月に過去最高を更新

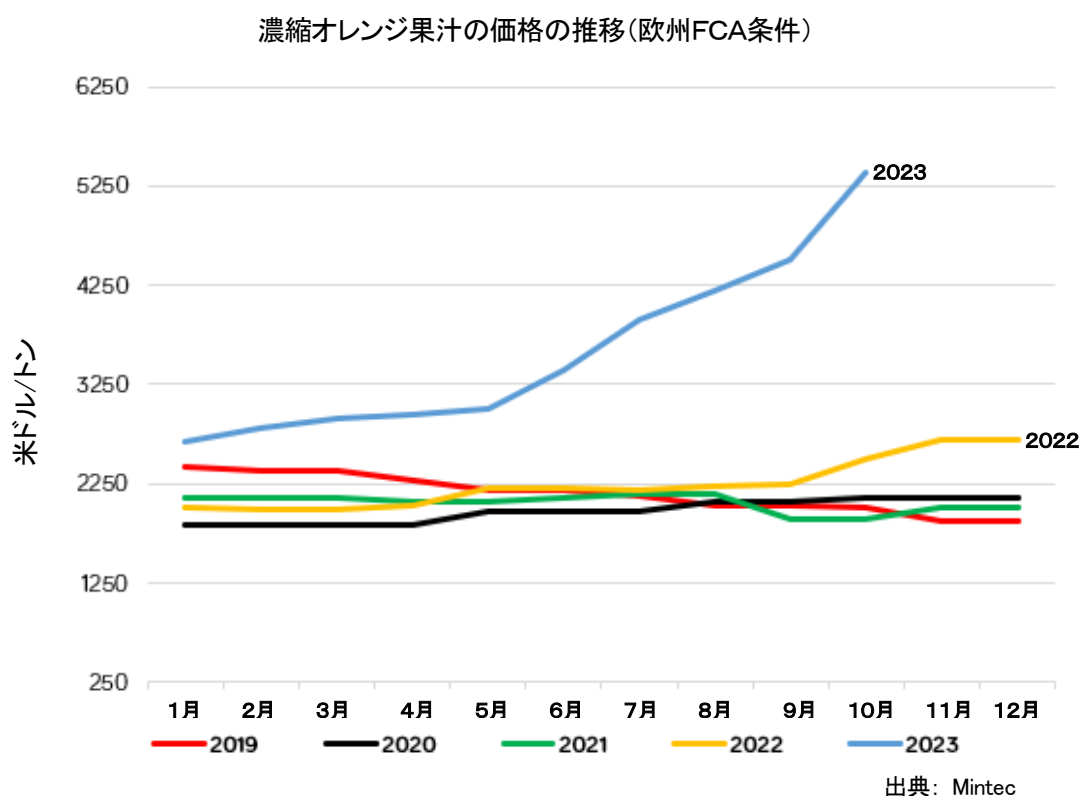
Mintec 2023年11月1日

オレンジ果汁市場は世界的に上昇を続けており、FCA(運送人渡し)条件でヨーロッパに納入されたブラジル産オレンジ濃縮果汁(非冷蔵)[Mintecコード:FJ01]のMintecベンチマーク価格は10月に、1994年に始まって以来の新記録に達した。現在の価格は5,390ドル/トンで、前月比20%増、前年比115%増となっている。この高い価格は投機的なトレーダーの間で関心を集めている。

オレンジ果汁市場の動きの主な駆動力は、供給の状況である。カンキツグリーンング病の脅威は、ブラジル、メキシコ、米国などの主要生産国でオレンジの果樹に依然として被害を与えている。不治の細菌性病害であるカンキツグリーンング病は、未熟果の落果、果実の苦味や奇形及び収穫量の低下につながる。感染した果樹はやがて枯死する。

市場関係者によると、世界のオレンジ果汁供給量の75%以上を占めるブラジルでは、果汁の在庫がほぼゼロにまで減少している。この枯渇は、2020年以降年々減少してきた果汁の期初在庫の減少に起因している。在庫が減少するにつれて、米国のブラジル産オレンジ果汁への依存度が高まっており、一方、欧州では需要が堅調に推移している中、市場への供給が需要に追いつかず価格を押し上げている。市場関係者が報告しているように、カンキツグリーンング病によって生産者が被った多大な損失を踏まえ、多くの生産者はオレンジの果樹の栽培本数の増加に再投資することを躊躇している。

次のグラフは、2019年以降のオレンジ濃縮果汁の価格を示している。



執筆者: ハリー・キャンベル

(関連記事)米国 オレンジ果汁先物価格が史上最高値を記録

ロイター 2023年11月1日(英国時間)

ニューヨーク、10月31日(ロイター) - 米国、ブラジル、メキシコでのオレンジ生産が限定的との見通しがオレンジ果汁に対する投資家の関心を高めたため、オレンジ果汁の価格は火曜日(31日)、1966年にニューヨークで先物取引が取引されて以来の最高値に上昇した。

インターコンチネンタル取引所(ICE)の冷凍濃縮オレンジ果汁(FCOJ)の1月限(決裁期限が1月)の価格は、取引時間中に1ポンド当たり4.17ドルの史上最高値を記録した後、1ポンド当たり3.83ドルまで下落した。(1ポンド=約0.4536kg)

今年、契約価格は90%上昇した。

ライターキャピタルインベストメンツ社のトレーダーであるデイブ・ライター氏はX(旧ツイッター)で、「これらの市場は時として、我々の最も大胆な予想を上回る。誰がオレンジ果汁が1ポンド4ドルになると予測したか? この取引による利益の可能性は驚異的だ」と述べ、一部の投資家が契約に基づいて得たポジションに言及した。

レイクフロント・フューチャーズアンドオプション社の上級副社長兼投資戦略専門家のダリン・フェスラー氏は、「オレンジ果汁は取引量が非常に少ないため、トウモロコシや大豆のように市場を動かすのが極めて難しいという訳ではない」と述べている。

例えば、1月限のオレンジ果汁のポジション(建玉)は、月曜日の取引終了時に8,111ロットであった。比較として、ソフト商品(農畜産物)の中で最も取引量が多い同取引所の粗糖のポジションは、43万5千ロット以上であった。

しかし、投機的なゲームは別としても、悪天候とカンキツグリーニング病と呼ばれる細菌性病害により、メキシコ、米国、ブラジルという3つの主要生産国でオレンジの生産量が減少しており、市場のファンダメンタルズ(基礎的な条件)は非常に上向きである。フロリダ州の生産量は近年、ハリケーンによっても打撃を受けている。

ブラジルの果汁製造業者を代表する団体であるブラジル果汁協会(CitrusBR)の執行役員イビアパバ・ネットー氏は、現在の供給逼迫状況の逆転には時間がかかると見られ、またそれが確実に起こるとは限らないと述べた。ブラジルは世界のオレンジ果汁貿易で75%のシェアを持っている。

ネットー氏によると、果実生産者はカンキツグリーニング病を恐れて果樹園を拡大するための投資をためらっているという。

同氏は、「前回の大豊作は5年も前である。基本的に在庫はゼロの状況だ」と述べた。

報告者: マルセロ・テイシェイラ、編集者: ニック・ジーミンスキー